

「さばきを行う方は、ただひとり」

ヤコブ4：11-12

堀田修一 21・6・13

先行する神の恵み：主は、私たちの悪口や人をさばく罪の為に十字架で死んで下さいました。

I 悪口とさばき「兄弟たち、互いに悪口を言い合っては いけません」：11

1. 悪魔は、私たちを誘惑して、教会の中に戦い、争い（4：1）、悪口、さばき合いを入れて分裂させようとしています（Iペテ5：8）。ですから目を覚まして祈りましょう。さばくよりも祈り支えましょう。
2. 悪口やさばく事は、私達が、へりくだりがなく、高ぶっている（：6，10）事のしるしです。私たちの罪の心は、他の人の悪口を言うことによって、自分を高めようとしています。そうすることにより、かえって自分の品位が下がるのですが。私たちも反省したい。非難、うわさ、中傷により、多くの人を傷つけ、交わり、一致を壊してしまふ。この罪を神に告白し（Iヨハ1：9）、赦され、心と口をきよめていただくように祈りましょう。但し「柔和な心で人を正す」（ガラ6：1）事は、悪口ではありません。
3. 「自分の兄弟について悪口を言ったり、さばいたりする者は、律法について悪口を言い、律法をさばいているのです」：11→律法（神の戒め）をまとめて言うなら、まず愛され、救い出して下さった（出20：2）「神を心から愛し、隣人を自分自身のように愛しなさい」（マタ22：36～40）です。それを知っていながら少しも改めず人の悪口を言いさばき続ける（神と人を愛する事の反対）なら、「神の律法なんか恐れる必要はない、たいしたことはない、守る必要なんかない」とばかにし、さばいていることになりまふ。「もし、律法をさばくなら、律法を守る者ではなくて、さばく者です」→本来、私たちは、神の律法が良いものか悪いものかを判断する（「さばく」

の原語は「判断する」の意味もある)、さばく者ではなく、神の律法(戒め、みこころ)を守る(行う)べき者です。ところが、人の悪口を言うさばきは、結果的には、律法をも重んじないで人をさばき、律法を守る者という本来へりくだった立場からずれて、さばく者という高ぶった立場に自分を押し上げているのです。※SNS等での悪口も人殺しの罪です。気を付けたい。

4. 「律法を定め、さばきを行う方はただひとり」：12→間違いのない正しい律法を定め、善悪の正しい判断、さばく資格があるのは、神のみです。自分にとって自分が律法(真に正しい判断が出来る)となれる究極的な真理を持つお方は神だけです(ヨハネ14：6)。上から目線で、人をさばいている時、私達は高ぶり、自分を神の座に押し上げているのです。人間は、世間の目や流れや立場、利害関係ですぐに判断が動いたり、ぶれてしまい、真理や善悪の判断を曲げてしまいます。しかし、この御言葉は、教会の戒規(マタイ18：15～17)や間違った教えを拒否する事(ヨハネⅢ10節。「人々が健全な教えに耐えられなくなり、耳に心地よい話を聞こうと、自分の好みにしたがって自分たちのために教師を寄せ集め、真理から耳を背け、作り話にそれて行くような時代になるからです」Ⅱテモテ4：3-4)や社会の正しい裁判所や裁判官を否定しているのではありません(ローマ13：1)。と同時に、裁判官も弱さと誤りを持つ一人の人間ですから、良く見守り祈りましょう。正しい判断を下す人は、悪い権力や組織によって妨害されます。私を含め、人は皆罪人です。政治家、裁判官、警察、検事すべての人が、組織や保身、出世のために正義を曲げる可能性があります。大切な書類が改ざんされる中、大きな組織の中で忠実に正義を守る人が、精神的に病み、自殺される事も起きています。人間は、皆、正義の神の前にへりくだるべきです。本来は、私達も、どんなに偉い人も、「私は完全な人間ではありません。神様、私が正しい判断が出来るように助けて下さい」と祈るべきなのです。神は「救うことも滅ぼすこともできる方です」：12→神は、私たちの命と死との支配者です。神は、私たち人間を「ゲヘナ(地獄)に投げ込む権威を持っておられる」(ルカ12：5)。神は、へりくだる者を救い、高ぶる者を滅ぼされます(ヤコブ4：6)。神の家族である教会のある人の悪口を言いさばき続け、主の教会を乱す人を神はさばかれます(Ⅰコリント3：17)。「隣人をさばくあなたは、いったい何者ですか」：12。私たちは、神によって造られ、命が与えられ、神の許しなしには一秒でも生きる事は出来ない者です。また、この神に罪を犯し、すぐにさばかれても当然な者なのに生かされている。これらの驚くべき恵みを忘れ、自分が何者であるかのように思い上がり、神の座につき、他の人をさばいてしまうことを悔い改めたい。他の人

をさばく資格のない、罪と弱さと欠点の多い者、罪人のかしら（Ⅰテモテ1：15）であることを認めたい。ただ神の憐み、恵みで救われ生かされている私たちです！その恵みに日々驚き、感謝するのがキリスト者の真の姿です！

Ⅱ 悪口や人をさばく罪に打ち勝つために。

1. まず、自分自身に悪口や人をさばく（過度に批判的、あら捜し、自分はいつも正しく他人は間違っているという高ぶり）罪があることを認め、神に告白しましょう。神は赦して下さいます。Ⅰヨハネ1：9。
2. 私たちの心を聖霊なる神が支配され、満たされ、私たちの口と心を聖めて下さるように祈りましょう。ルカ11：13。
3. 当の本人に謙遜と柔和（ガラ6：1）と愛（エペソ4：15）をもって話さず、他の人に悪口として言いふらす時、それは、さばく罪となり分裂や分派を起こすこととなります。悪魔は、この方法で多くの交わりを分裂させて来た。「分派を作る者は、一、二度訓戒した後、除名しなさい」テトス3：10
4. ある人に本当にアドバイスしなければならない時は、その人以外の人に先に言いふらさず、祈りつつ当人に愛と真実を持って話します。エペソ4：25。自分の立場で考えても、もし、ある人が、自分自身に話してくれる前に、他の人に自分の問題点を言いふらしていることを知ったら、どんなに傷つくでしょう。※当の本人に話すためには、かなりの勇気と愛が必要です。悪口としてではなく、信頼できる人に相談し、聞いてもらい、冷静になり、祈ってもらい、時満ちて、場所と時をわきまえて、祈りつつ話すことは良い事です。その場合、聞いてあげる立場の人が興奮して（その人以上に怒る）、一緒に裁かないことが大切です。それでは、助けにならず、かえってマイナスです。他の人に忠告を与える前に、自分自身が、自分の罪、悪を神の前に告白し赦され、聖められる事が大切です。マタイ7：4, 5。
5. 自分も不完全である事をいつも認め、互いに過度の期待、要求をしてはなりません。マタ7：1～5。陰口や中傷は、自分の所で止める。偏ってではなく、すべてのことを正しく知っておられる神に祈る。神が働いて下さるように。自分自身が、悪口を言う人ではなく、愛を持って神の祝福を祈る人に変

えられるように。「祝福すべきであって、のろってはいけません」ローマ12：14。人のあら捜しをするさばきの代わりに、祈りつつその人の良い所を捜し、評価し、感謝することができますように。まず教会、家庭の中でこの愛を実践できますように。残りの人生、いつも人の悪口を言いさばき、交わりを壊す人生か、いつも人の良い所（それぞれへの神からの賜物）、やってくれた事を評価し励まし生かす人生にするかは、私たち次第です。「互いに励まし合い、互いを高め合いなさい」Ⅰテサロニケ5：11。

祈り：心に神の愛を注ぎ続けて下さい。悪口を言う者ではなく、神を賛美し、神と人に感謝し、愛し合い祈り合い支える者にして下さい。正しいさばきを行うのは神ご自身のみです！